

—第81編— 水上のタウンシップ

今はもうなくなつた香港の水上都市である。英国スコットランドの地名からとつたアバディーン^{*1}と呼ばれる小さな湾にあった。水上の大半を埋め尽くす無数の木船が寄り添うように停泊し、互いに「舫い（もやい）」の關係で繋がりあう人々の生活空間であつた。湾の水が清掃や身の回りの雑事に使われた。東南アジアの諸都市に類似する水上都市がいくつもあるが、その規模や密度から見て、我々が初めて訪れた1980年代半ばのアバディーンは圧倒的であつた。

彼らは蛋民（たんみん）と呼ばれ、華南の広東省、福建省、広西チワン族自治区、海南省、香港、澳門の沿岸地域や河川で暮らす水上生活者である。陸に土地をもたず、主に船を家とし、水上で漁業、水運、商業などの生業を営む。このため、船上人とも呼ばれる。彼らは漢民族なので少数民族には分類されないが、生活様式の貧しさや教育程度の低さなどを理由に被差別民であつた。1970年代まで、非蛋民との通婚も限られていたという。5世紀に農民一揆



写真81-1 1980年代のアバディーン

*1
Aberdeen: 香港島の
港町

*2
舫船（ろじゅん）
（411）

を首謀した盧循（ろじゅん）が海沿いに南下したが失敗し、水上生活を送るようになったとのことだ。すなわち、「①上陸して居住しない」「②勉強して字を覚えぬ」「③陸上の人と通婚しない」という3つの禁を課せられ、これが千年余り続いた結果、特殊な生活をする人たちが生まれたとされる。香港では1970年代から、彼らも陸上生活を送れるべく政府に支援を求める声が高まり、その結果として大規模公共住宅への入居が進むようになった。現在水上生活者の数が減少を続けている理由はそこにある。

都市の歴史は様々な悲惨な出来事の集積である。部外者にとって、そこに沈殿する怒りや悲しみを共有することは不可能である。想像力をフルに発揮しながら、目の前の現実を



写真81-2 船の上の水上生活

なんとか理解しようとするとき、観光というオブラートは取り去らなくてはならない。アバディーンでは危険な場面に何度か出会った。しかし、それも現実の一部であることを心すべしだ。そう思いながら、水上生活の一部始終を脳裏に焼き付けた。



写真81-3 水上生活と高層住宅